

2009. 1. 1 発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦  
 連絡先 Tel.04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



信玄堤の説明を聞く

山梨県 釜無川

### 甲府の地下水湖

信玄が甲府盆地のほぼ全域で行った治水工事の大きさを新河岸川流域を物差しとして見ました。

甲府盆地：扇状地面積 300k m<sup>2</sup>,堆積礫層は平均 70m。  
 新河岸川流域:流域面積 411k m<sup>2</sup>の大半が扇状地であってみればほぼ同規模と思われます。礫層は荒川寄りです。海に開けた新河岸川と違い、袋の口を締めたような鰍沢に地下ダム（不透層壁）があり甲府盆地の地下水位を押し上げ甲府市内で平均地下 5~10m だそうです。礫層 70m の地下水湖を持ち水に不自由しない甲府盆地と思われますが、過去に地盤沈下に見舞われたこともあるようです。

“地質学的成因には地底湖説もあり、近世の地誌にも甲府盆地がかつて湖底であったと考える湖水伝説が見られる”等の説もあります。

信玄の大工事の上にある甲府ですが、湖の上にあることは今も変わらないようです。新河岸と甲府の水伝承を比べてみたいものです。  
 (中田)



H. T.

オランダガラシ

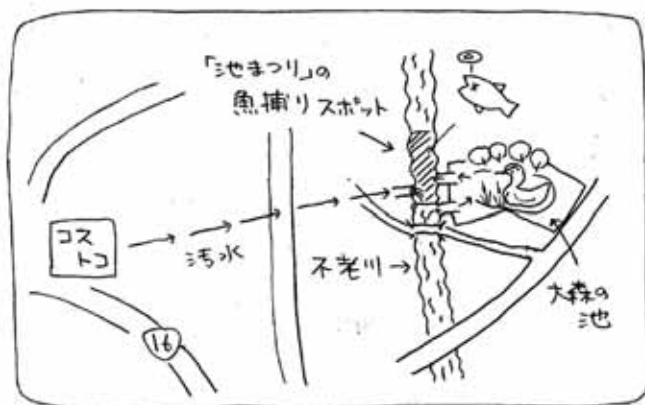
別名クレソン。清流沿いなどに生える。大森の池に群落、水鳥のエサとして重要である。不老川支流でもよく見かける。

# 不老川に大量の汚水

8月17日、9回目の“大森の池まつり”が、雨模様の中、盛會に開催された。NHKのテレビ取材もありました。午後の予定の不老川での魚捕りをする前に現地を覗くと、取水口の左岸から白濁した水が大量に流れ出ていた。とても子供達を川に入れて魚捕りをさせる状況ではないと判断し、全員に中止すると発表した。腑に落ちないと現地を見に行つた参加者もあつたと聞いたが、昨年まで8年間行なつてきたイベントを中止する事は残念の一語に尽きる出来事であつた。

まつりには、埼玉県と入間市の職員の参加もあつたので、対策を講ずるよう要請したが、翌日には埼玉県西部環境管理事務所と入間市役所の水質担当者(川水の汚濁対策は人口によって、入間市は県、狭山市、所沢市、川越市は市が担当)が原因調査に来たが、対応の早さは驚きであつた。

原因は4月10日にアウトレット入間の敷地内で同時に開店した会員制スーパー「コストコホールセール入間倉庫店」の排水でBOD260mg/Lと埼玉県条例25mg/Lの10倍の汚れた水を流していることが分かつた。



同店によると来客が予想以上に多かつたので合併処理槽の処理能力を超えた結果であるとの説明であつた。

その後数回に亘つて県、市、同店の3社で協議が行なわれ、漸く11月の半ばになり、応急処置として新たに、膜分離活性汚泥方式の浄化施設「仮説膜処理ユニット」を設置し稼動を始めたので、11月25日の同店の調査ではBOD6,6mg/Lの数値がでた。同店が総量規制(東京湾

の富栄養化防止対策で、排水はBOD換算10mg/L以下となっている)以下の水質まできれいにしたことは評価すべきであろう。

行政としては、これは応急処置なので今後も監視を行なうと共に早急に下水道に繋ぐよう交渉を進める方針であると聞いているが、ゴミはゴミ処理場、排水は下水処理場をお願いすることが当然と思う。

この件は11月21日の読売新聞に始まり22日は朝日新聞と毎日新聞、23日は東京新聞の県西部版に大きく報道されたので、ご存知の人も多いと思う。

## 問題点

4月開店から8月迄5ヶ月間発見出来なかつたことは、当会としても反省しているが、市としても生活排水指導員(不老川流域各市に設置され汚濁監視も行っている)が機能しなかつた点は反省しなければなるまい。又、水質汚濁防止法及び埼玉県生活環境保全条例違反である事が明白であるのに、発覚から4ヶ月後に一応改善されただけで、根本的解決されたわけではない。何故早急に解決できなかつたのであろうか。更に、同店周辺は最近急激な開発が行われ、約5haの雑木林が失われたが、現在建設中の5階建ての中古車販売店もあり、一帯の下水道設置を望むものである。(相馬)

## 環境学習サポート 10月27日

今年も入間市立藤沢東小5年による不老川での魚捕りのサポートを行なつた。例年は魚捕りに夢中で、川からなかなか上がらない子供が多かつたが、今年は魚の数が少なく捕れないので、時間を持て余す感じで残念だつた。護岸工事が行われて土羽護岸が少なくなり、魚の棲家が年々少なくなつた事が原因だろうか。

ザリガニの死骸も多い感じで上流の汚水流入の影響だろうかと思つた。(相馬)





# 信玄堤見学

## 信玄公の壮大な治水事業

11月19日 会として久々の河川見学に出かけました。古えの治水事業の粋と知られる信玄堤です。ついでに荒川源流の昇仙峡の紅葉を堪能してきました。総勢20人

「人は石垣 人は城」は甲府出身の私の友人が酒を飲むと必ず謳う武田節の一節である。武田信玄は城らしい城を構築しなかったという。戦国の武将はみんな競って高い石垣で城を構築した。事実、武田信玄の住んでいた武田神社は殆ど石垣のないいわゆる城らしい城ではない、ほんの少しの堀と石垣があるだけである。

「人は石垣 人は城」とは民衆を信じ敵から守るのは民衆の力であると信じていたせいではないだろうか、殆どの労力は築城ではなく、毎年領民を苦しめた河川の氾濫対策の治水工事に費やされたのではないだろうか。

信玄堤（昔は竜王堤といわれていた）は駿河湾に注ぐ富士川水系の上流の釜無川と笛吹川の合流地点の甲府盆地にある。年間降雨量は上流で約1100mm、下流で2500mmもある日本三大急流の一つである。

信玄堤は武田信玄がブルドーザー、パワーショベルのない時代に、河川の氾濫が頻繁に起こった釜無川と支流の御勅使川（みだいがわ）に20年近い歳月を費やして築いた壮大な治水事業であった。洪水を防ぐための対策として支流の御勅使川に将棋頭という石垣を築き、河川を分流し水勢を弱めた。また、河



甲府盆地を守ってきた  
信玄堤の水制「聖牛」

川を大地部（高岩）の方に分流して水勢の強さを高い岩地で受けるようにした。下流部には信玄堤を構築してエネルギーの減殺、堤防に聖牛（せいぎゅう）という木材と石組みを配し洪水が直接襲わないようにした。また万力林は万人の力を合わせて強固な堤防にするという願いを込めてつけられたと言う。万力林の役目は洪水時に密生している松の大木によって流木や土砂を防御し氾濫した洪水を川の方に戻すためにあるという。土石、流木防御のための堤防付近に植樹を行った。

武田信玄ドラマや映画でよく言われている、実父を国外へ追放した非情の戦国武将というイメージがあった。しかし、今回信玄堤を見学して初めて、山梨県民がこぞって敬愛する武田信玄の偉大さを見たような気がした。（本多）



### 08 クリーンエイド in 不老川

10月19日 入間公民館から新入曾橋まで

今年はエコクラブのほか近隣の男の子達5、6名も加わり、埼玉テレビ取材付きで賑やかにゴミ拾い、ゴミ分別を行いました。圧倒的に多かったのが発砲スチロール片とポリ袋片。紙類や布、タバコはわずかでした。これらのゴミが川にどんな影響を与えるのでしょうか。

子どもたちが参加した水質調査、透明度は高く一見きれいそうですが、アンモニア性窒素、亜硝酸の濃度が高く出て汚れていることがわかりました。

次は田口さんの畑でのいもほり。色つやのいい大きなおいも、持ちきれないほどの収穫でした。子供たち、並んでテレビ局のインタビューを受けました。

仕上げはこの畑の野菜が入った「スイ豚汁」です。これが楽しみで参加する者が多いとのうわさ。やっぱりおいしかった。

今年はゴミ拾いのペースが速く、川の観察や生き物の観察が抜け落ちてしまいました。また仕分けの段取りにももっと工夫が必要、と反省が出ました。（田上）

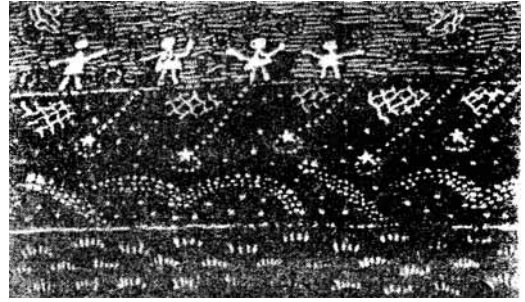


## 高木さん作詞の“不老川の応援歌”

キラリボードでおなじみの川越の高木さんは、不老川に対する思いを歌に、絵に、文章にして発信しつづけています。絵は「不老川百景」を画き続けていて、50枚ほど画き上がったそうです。

不老川の汚名を返上し、キラリ輝くすばらしい川に戻ってほしいと、このほど“不老川の応援歌”作詞し、尚美大学音楽部学生関口孝明さんに作曲してもらいました。11月15日川越北公民館で開催された「第8回かんきょう祭り」のなかで発表されました。唄は「バーベナコーラス」伴奏は川越市立福原中学校吹奏楽クラブでした。

(福原コミュニティだより「おあしす」参照)



不老川の応援歌

作詞 高木宏尚  
作曲 関口孝明

一不老川は いい川だ  
わたしたちの 学び川  
汚れたときも あったけど  
みんなの力跳ね返す  
流れろ 流れろ 元氣よく  
わたしたちの 学び川  
二不老川は いい川だ  
わたしたちの 学び川  
ふるさと 流れて愛されて  
みんなの力で「日本一」  
輝け 輝け 不老川  
不老川は いい川だ  
わたしたちの きらり川

## 大森の池の写真入賞

「川の国埼玉フォトコンテスト」に、大森の池に入り遊んでいる母子の写真(応募数 1153点)が“コパト賞”に輝いた。



お母さんすごいね～

(社)埼玉県観光連盟 撮影者 鈴木 博子

## お知らせ

### 川でつながる発表会

21年2月8日 東久留米市 自由学園にて  
川を使った環境学習の成果を小学生から大学生までの子ども達が発表をします。

詳細は相馬まで☎04-2965-1741

### 川づくりに参加しませんか

定例会:毎月第3土曜日 13:00～

年会費:1000円 詳細は下記世話人まで

入間市:相馬 04-2965-1741

狭山市:丸橋 04-2959-3831

所沢市:小黒 04-2923-8946

川越市:高木:0492-49-9828

## ～流域情報～

### H20年度 新河岸川流域フォーラム開催 11/1

テーマ【みんなであつめる流域の、治恵(ちえ)】

ふじみ野市サブスセンター ココネ広場で行われた。パネル展示、流域自慢大会などがあり、当会自慢として、「一生懸命守ってようやく残されているのが今の自然環境で、守るだけで生活のない擬似自然もあります。貴重な河畔林を今後も残していくため、市民からの情報発信を行っています」と発表した。

### さやま環境ウォーク 2008 11/24

NPO法人さやま環境市民ネットワーク主催  
“入曾・水野新田の面影を追って ふるさと緑の景観地を歩く”狭山市立入間小学校出発して寺、道祖神、入曾用水(こかわ)廃棄処分場、雑木林、茶畑と約 6km、くもり空で寒いなかを歩いた。ゴールでは完歩賞と参加賞が出た。

### トロの森 シンポジウム 11/29

【トロのふるさと財団】の設立10周年記念シンポジウムが所沢市で行われ、当会もパネル展示で参加した。アニメの宮崎駿監督もパネリストとして、会場に姿を見せていて「環境保全などの運動が実るのは次の世代になってからだと思う。無理せず、各自ができるところで、活動を持続させていくことが大切だ」と語った。